

スノーボード競技実施要項

1. 競技

アルペンスノーボード競技とする。

2. 競技規則

大会開催年度の財団法人全日本スキー連盟（略称 SAJ）の競技規則及び全国ろうあ者冬季体育大会申合せ事項による。

3. クラスおよび種目

男子クラス、女子クラス。

男女共大回転（試技 2 本）回転（試技 2 本）

4. 出場資格

年齢制限なし。

5. 競技方法

種目ごとに試技合計タイムで順位を決める。

個人総合成績は各種目得点によるポイントの平均で順位を決める。

6. クラスの試技順

種目ごとにクラスの試技順を下記とおりとする。

大回転（G S L）

1. 女子 2. 男子

回転（S L）

1. 女子 2. 男子

7. 試技 1 本目のスタート順

1 本目はゼッケン番号順による。

8. 試技 2 本目のスタート順

SAJ 競技規則第 621 - 10 に基づき、次のとおり定める。

男子

同一種目で、1 本目の成績上位 15 位までをリバーススタートとし、16 位以下は 1 本目の成績順にスタートする。15 位が 2 名以上の場合は、1 本目スタート順と同順とする。

競技者が 15 名に満たない場合は、2 本目も同じ数でリバーススタートとする。

女子

同一種目で、1 本目の成績上位 5 位までをリバーススタートとし、6 位以下は 1 本目の成績順にスタートする。5 位が 2 名以上の場合は、1 本目スタート順と同順とする。

競技者が 5 名に満たない場合は、2 本目も同じ数でリバーススタートとする。

9. 2 本目試技の制限

試技 1 本目を終えた者が出場できる。但し、途中棄権及び失格となった者は出場できない。

試技時間不足と判断した時は、SAJ 競技規則第 2231-2「2 本目のスタート順」に基づき、2 本目出場者を 1 本目上位 25 人以内とする。
時間に余裕がある場合は、男子 4 5 人選手、女子 2 5 人選手に対し、 Jury が二本目の滑走を許可することがある。

10. スタート順のドロー

最終申込締切日後、1 週間以内に競技主管と実行委員会でドローを行なう。ドローはダブルドロー方式とする。

男子

1) 第 1 グループ

前回大会においてポイント（成績）を有する者で、種目別に上位 15 名を選出し、上位から順次でスタート順をドローする。同一種目で 15 位が 2 名以上の場合はこれを第 1 グループに含める。

2) 第 2 グループ

前回大会においてポイント（成績）を有する者で、第 1 グループに入らなかった者とし、種目別にポイント上位から順次でスタート順をドローする。

3) 第 3 グループ

前回大会においてポイントを有しない者、初めて出場する者とし、加盟団体ごとによるスタート順をドローする。

女子

1) 第 1 グループ

前回大会においてポイント（成績）を有する者で、種目別に上位 6 名を選出し、上位から順次でスタート順をドローする。同一種目で 6 位が 2 名以上の場合はこれを第 1 グループに含める。

2) 第 2 グループ

前回大会においてポイント（成績）を有する者で、第 1 グループに入らなかった者とし、種目別にポイント上位から順次でスタート順をドローする。

3) 第 3 グループ

前回大会においてポイントを有しない者、初めて出場する者とし、加盟団体ごとにスタート順をドローする。

11. インспекション

インспекションは選手の他にチームキャプテン、コーチが参加できる。但し実行委員会交付のネームプレートを着用しなければならない。

12. 表彰

表彰は、各種目の試技終了後の 30 分後に行う。

表彰は、各競技別・各クラス別に 1 位から 3 位までを賞状とメダルを授与する。

13. チームキャプテン会議

チームキャプテン会議出席者は、加盟団体チームキャプテン、コーチの各 1 名とする。また選手がこれらを兼任することもできる。

一般選手は、一切異議などは認めないが、傍聴はできる。

14. コースおよびセッティング

(1) 大回転競技

- 1) 標高差が 200m以上～400m以下で、地形が波状起伏に富んでいること。
- 2) コース幅が 40m未満であること。
- 3) 旗門のセッティング

最低/最高旗門/5/標高差の 11%から 15%

旗門の幅 25m～30m

二つの連動する旗門の内側のポール間及び垂直なヘアピンでは、一番近いポール間距離 10m以上。

1 本目と 2 本目の旗門セッティングは変更することが望ましい。

(2) 回転競技

- 1) 標高差が 120m以上～180m以下でコース幅 40m以上であること。
- 2) コースは両サイド中央とも可能な限り平坦で、曲芸的なものを入れてはならない。
- 3) 旗門のセッティング

旗門はフォールラインのみにセットされているのではなく、傾斜線を散在させ、いくつかの深いターンを入れなければならない。できるだけ堅い斜面を用意すること。

旗門数は最低 20 最高 50 旗門とする。旗門を構成する 2 本のポール間の幅は、最低 5m、最高 8m とする。

旗門間の距離は最大 15m

- (3) セッティングする際の注意として、大回転・回転とも 2 コースは左右対称でグーフィ・レギュラーのどちらかに有利になるものとする。

15. その他

スタート合図は光源による点滅表示（スタート前 10 秒のカウント）で、最後の点滅でスタートする。

ストックの代わりにスタート用バーを設置する。

試技中はリーシュコード等ストッパー着用を原則とする。

大回転競技試技中はクラッシュヘルメットを着用すること。

競技中は補聴器の使用を禁止する。

・2005年2月27日 第7回全国委員会で 一部改正